

事業所名 グループホーム雅

運営推進会議開催報告書

| 開催予定日時 2026年3月27日(金) | |
|---|----------------|
| 参加者 | 議題 |
| 利用者 0名 | 1 利用者様状況報告 |
| 利用者家族 1名 | 2 行事報告 |
| 地域住民の代表者 1名 | 3 身体拘束適正化検討委員会 |
| 市職員 1名 | 4 質疑応答 |
| 地域包括支援センター職員 1名 | 5 次回開催予定日 |
| 事業所 3名 | |
| 会議録 | |
| <p>1 利用者様状況報告</p> <p>2026年2月10日 要介護1、85歳 男性が入居されました。 男性1名、女性8名の計9名様が入居しています。 最年長：女性102歳 最年少：女性83歳 平均年齢 90.4歳</p> <p>要介護度</p> <p>要支援 2…0名 要介護1…2名 要介護2…1名 要介護3…2名 要介護4…4名 要介護5…0名 平均要介護度 2.8</p> <p>2 行事報告</p> <p>2月4日、節分 恵方巻き作りと豆まきを行っています。恵方巻きでは、マグロ、玉子、かんぴょう、でんぶ、大葉を皆様に巻いて頂きました。豆まきでは、鬼の的にボールを投げて楽しんで頂きました。</p> <p>3月1日…利用者一名の誕生日会 手作りケーキ、バースデー色紙、皆様の歌でお祝いしています。</p> <p>3月3日…ひな祭り 皆様でおこし物作りをしました。おやつで召し上がっています。</p> <p>・予定行事 4月、お花見</p> | |
| 3 第48回 身体拘束適正化検討委員会…スピーチロックの原因と対策 | |

スピーチロックとは

「言葉による拘束」のことです。具体的には、「ちょっと待って」「座っていて」といった声かけにより、利用者の行動を制限したり、心理的に抑制したりする行為を指します。物理的、フィジカルロックや薬理的、ドラッグロックに並んでスピーチロックも身体拘束に該当されていて、3つのロック(スリーロック)と呼ばれています。

スピーチロックが起きる主な原因

ケアの対応が重なってしまう

複数の利用者が同時にケアを必要とする場合があります。このような状況が個々の利用者への十分な対応が出来なくなります。

事故を起こさないための過剰な表現

利用者の安全を守る責任があります。その結果、スタッフは利用者に対して過剰に保護的な態度をとることがあり、これが利用者の自由を制限する形となってしまうことがあります。

知識・理解不足

認知症の方への理解不足や、尊厳を守るという権利擁護の認識が欠如している。

ストレスや感情のコントロール不足

同じことを何度も言われたり、思うように介助が進まなかったりすることで、職員にイライラが募り、威圧的な言葉遣いになってしまう。

慣れによる無意識な習慣化

特定の利用者との関係に慣れが生じ、緊張感がなくなることで、丁寧な言葉遣いを忘れ、無意識のうちに相手を抑制する表現が「当たり前」になってしまうリスクがあります。

職場の文化・慣習

組織的にスピーチロックが常態化しており、新人職員もそれに染まってしまう。

スピーチロックをしないための対策

スピーチロックを防ぐためには、本人の気持ちに寄り添い、尊重するコミュニケーションが不可欠です。

・理由や思いを聞く

なぜそう信じているのか、なぜそうしたいのか、背景にある思いを理解しようと努める。

・否定せず、受け止める

本人の「信じる物」を頭ごなしに否定せず、まずはその感情や思いを受け止める姿勢を示す。

・話題を変えたり、共感を示す

「そうなんです」と一度受け止めた上で、本人が安心できる話題に誘導するなどの工夫をする。

- ・専門的な知識を持つ

認知症の特性を理解し、症状からくる言動であることを認識した上で対応する。

本人の信じる物を否定しない

「本人の信じる物を否定する行為」は、まさにこのスピーチロックの一形態、あるいはそれに付随する不適切なコミュニケーションであり、特に認知症の方への対応として避けるべき行為の一つです。

グループホーム雅での対応

- ・利用者様を呼ぶ時はあだ名など呼ばず「さん」付けで呼んでいます。
- ・利用者様には、柔らかい口調で話しかけています。
- ・利用者様に待っていただく事があります。その時には、理由を説明して待っていただいています。
- ・新しく入る職員に身体拘束の話をしている。その中でスピーチロックも身体拘束に該当する事をしっかり伝えています。
- ・怒らない、否定しない、冷たくしないを職員間で周知しています。

4 質疑応答

特になし

5 次回開催予定日

2026年5月15日(金) 14:00～